

海外安全対策情報

【定期報告：4月～6月】

在ケープタウン領事事務所

1 西ケープ州における犯罪傾向

- (1) 引き続き、住民や観光客を狙った一般犯罪は市内・市外問わず恒常的に発生している。
- (2) 在ケープタウン領事事務所管轄地域の2016年4月～6月における邦人に対する被害の報告件数は1件であった。

2 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

(1) 殺人

ア 邦人被害者情報なし。

(2) 強盗

邦人被害

ア 邦人被害者情報なし

その他の被害事件

ア 邦人被害者情報なし。

イ 5月17日夕方、ケープタウン市プラムステッドに住む夫妻の家に突然ナイフを振り回す男2人組が入り込んだ。犯人らは住人を縛り、家にある現金、パソコン、携帯電話などの貴重品類などを奪っていった。犯人らは家の塀を登り、裏口から入ってきたとされており、警報装置等はなかった。

ウ 5月28日午前2時頃にケープタウン市の高級住宅地であるコンスタンシアを車で走行していたところ、運転手が3人組の男らに突然車を止められ、銃を突きつけられ、乗っていた車及び貴重品類を盗まれた。

(3) 強姦

ア 邦人被害者情報なし。

(4) その他

ア 5月17日午後8時頃、ケープタウンの大型商業施設であるウォーターフロントで邦人が食事をしていたところ、食事中横に置いていたバックパックが盗まれていた。邦人に身体的被害はなかった。

イ 4月、ケープタウンのメトロレールステーション（鉄道駅）において、複数回にわた

り電車の車両が放火された。いずれも乗客はいないため怪我人は出なかったが、ケープタウン市民の通勤・通学の足に大きな影響を及ぼしている。

ウ 5月20日付のケープアーガス紙でケープタウン中心部における過去1ヶ月のATM強盗の被害が減少したと報じられた。観光客を中心に3月には平均して1日1件のATM強盗の事件が発生していたが、パトロールを強化した結果、4月には週に2件まで減少した。しかしながら、パトロールや監視カメラで全ての犯罪を防止できるわけではないので、引き続きATMを利用する際には注意するように呼びかけている。

エ 5月20日深夜、ケープタウン市北部のテーブルビューのレストランを狙った現金強盗が起きた。レストラン内にあるATMからお金を引き出そうとしていた女性マネージャーが3人の男に囲まれ、ATMの鍵と中に入っていた現金を奪われた。同事件の1週間前には同様の事件がケープタウン中心部でも起きたと報道されている。

オ 5月30日、ケープタウン市デルフト（ケープタウン国際空港より東にある旧黒人居住区）のメインロードで4歳の男児を含む3名がギャングの抗争に巻き込まれ死亡した。他の巻き込まれた被害者も店での買い物の帰りに流れ弾に撃たれるなど、一般人が巻き込まれる事件となった。

カ 6月6日付のケープアーガス紙で観光地として人気のロングストリートを含むケープタウン市内中心部にあるキオスクのセキュリティを強化すると報道した。今年の2月にはカンパニーガーデنزの周辺で恒常的に観光客を狙ったスリなどの事件が頻発していたため、同セキュリティの強化が効果的に働くことを見込まれている。

3 テロ・爆弾事件発生状況

特になし。なお6月4日、在南アフリカ米国大使館は、イスラム過激派組織がラマダン期間中のテロを呼びかける声明を発出したことを踏まえ、同大使館HPにおいて、テロ組織がヨハネスブルグやケープタウンで米国民が訪れそうなモール等大型商業施設でテロを計画しているとの情報を入手したとして、在留米国民に注意を呼びかけている。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

5月24日付のケープタイムズ紙で南アにおける子どもを対象とした誘拐事件が頻発しているとの報道がなされた。NPO団体の報告によれば、昨年は南ア全体で265人の子どもが誘拐されており（内200人は後日発見）大きな社会問題になっている。

5 対日感情

概ね良好である。

6 日系企業の安全に関する諸問題

特になし。

7 日本人安全対策のためにとった具体的措置

(1) 在留邦人へのお知らせ等の発出

不定期ながらも、安全対策に役立つ情報を当事務所より「領事事務所からのお知らせ」としてメールを発出し、在留邦人に対して安全対策情報を発信している。

(2) その他の措置

常日頃より、当地在住の邦人等との意見交換を行い、当地での生活の安全情報の収集に努めている。